

論題「不如実信」(素案)

堅田 玄宥

基幹運動本部が同朋運動の集大成として「御同朋の願いに応える教学」の確立を求められているので、たたき台の一つとして提起するものであります。ロジックの趣旨を御取組み戴くことが最優先であり、論題名「不如実信」の妥当性は吟味して戴いて結構であります。

一. 題意

「不如実信」とは、本願の名号不如実の聞信により現生正定聚の位に就けず、今生の人間存在を等しく尊ぶことのできない事態(社会性発達障害)を招く概念をいう。

一方、如実の信を賜る他力の念仏者は、現生正定聚として自他一如のお育てに与る。

二. 出拠

(一)「~~獲~~得金剛真心者、横超~~二~~五趣八難道~~一~~、必~~獲~~現生十種益~~一~~、何者为~~レ~~十、…九者常行大悲益、十者入~~二~~正定聚~~一~~益也」(「現生十益」全 2-72、註 P251)。

(二)同一に念仏して別の道なきがゆゑなり、遠く通ずるにそれ四海のうちみな兄弟たり(浄土論註、註釈版七祖篇 P120-9)。

(三)いしかはらつづてのごとくなるわれらなり、如来の御ちかひをふたごころなく信樂すれば、撰取のひかりのなかにをさめとられまゐらせて(唯信鈔文意、註 P708-9)。

三. 釈名

「信(信心)」とは、無有疑心をいう状態概念であって、主体がない。

「不如実」とは、本願招喚の勅命を如実に聞信しない心的状態をいう。

「不如実信」とは、真実信心を獲得しないが為に現生正定聚の位に就けず、今生の人間存在を等しく尊び得ない事態(社会性発達障害)を招く概念をいう。

四. 義相^{ぎそう}

(一)不如実信の主体の特定

ア)人間存在を等しく尊び得ない念仏者の在り方を捉えて、宗門外よりこの事態は、「信心の社会性」(欠如)に係る問題だとする批判があった。

イ)しかるに、信心自体は「無有疑心」という主体のない状態(三一問答、註 P234)、「本願力回向の所産」という本質(現生十益註 P251)に係る以上、社会性は問うことができない。

信心獲得段階は、凡夫の主体の関与(自力のはからい)を認めない状態概念である以上、これについて社会性を問うても意味がなく

信心獲得後は、賜った信心(機受)の本質は名号である以上、その社会性を問うことは不遜の極みであるからである。

ウ)一方、真実の信心を獲得すれば、正定聚の位について、人間存在を等しく尊ぶことができる。現生に常行大悲の益を賜るからである(「現生十益」全 2-72、註 P251)。

ロ)よってこれに反する事態(社会的発達障害)があるとすれば、それは聞信不如実

の行者にいう事態だとしなければならない。

(二) 不如実信を離れて如実の聞信に帰るべきこと

人間存在を等しく尊び得ない事態(社会性発達障害)を克服するためには、ひとえに不如実信を改め、如実の聞信に帰ることが求められる。

(三) 本願の名号を如実に聞信すれば、現生正定聚の位に住する(現生十益、註 P251)。

現生正定聚とは、本願の名号聞信の即時に往因満足して入る利益をいう。
現生正定聚の効果

- ア) 常行大悲の益を獲得することができる。(「現生十益」全 2-72、註 P251)。
- イ) 人間存在を如来の一子地として頂戴することができる。
- ウ) 共に二種深信を賜ったお同行と尊ぶことができ、自他一如のお育てに与る。
- エ) 同一に念仏して他に道なき自覚を賜る。
- オ) いしかわらつづての如くなるわれらという認識に恵まれる。
- カ) 如来様の智慧と慈悲に育てられ、如来の器として修することができる。

五. 結び

「不如実信」とは、本願の名号不如実の聞信により現生正定聚の位に就けず、今生の人間存在を等しく尊ぶことのできない事態(社会性発達障害)を招く概念をいう。

一方、如実の信を賜る他力の念仏者は、現生正定聚として自他一如のお育てに与る。

六. 備考

(一)、経緯

「信心の社会性」という用語採用については、当時、勸学様方はみな一様に不快感を示されたという経緯がある(平成二十年三月三十日武田達城氏談話)

「信心の社会性」という用語は、解放同盟広島県連から持ち込まれた用語である(平成二十一年五月二十七日季平博昭氏談話)

御同朋の教学を確立する以上は、教学上の「信心」概念と矛盾を来してはならない、それには「信心の社会性」なるKWの使用は、今後、同朋運動を推進する上で差し控えるのが妥当である。「御同朋の教学」という表現に方向転換してきたのもその流れにある。

(二) 題目について

「不如実信(仮題)」は造語である。「信不如実」という呼称もありうる。

お聖經の上では、同様の概念に「信不具足」「聞不具足」がある。その一環として把握できないことではないにしろ、既に別の概念が縷々展開されており、まとめるにはそれらを顧慮しないわけにはいかない。その呼称を差し控えたものである。

合掌